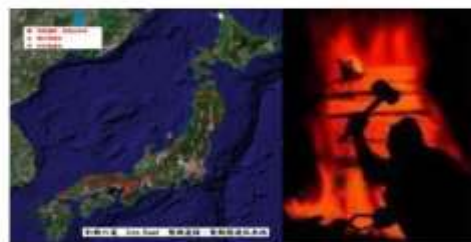


和鉄の道・Iron Road 2019 たたら遺跡探訪 掲載記事目次

わてつ みち 和鉄の道 • Iron Road

鉄の「まばゆい輝き・閃光」と「黒光り・肌光」
日本には「たたら製鉄」という鉄鉱石や砂鉄の塊から、
「硬くてねばい鋼」を直接作り出す日本古来の製鉄法がある。
ヒッタイトが人工鉄を発明した当初の姿を現代まで残し、
現在の製鉄法にも負けない高品質の鋼を作り出す技術に高め、
維持している日本独自の製鉄法である。



日本に「鉄」が伝来して、この「たたら製鉄」が行われるまで、約800年の長きにわたってたたら製鉄法の摸索が続き、その技術をさらに磨き高めながら1500年続いてきた日本独自の製鉄技術。「鉄は国家なり」「鉄は産業の米」と「鉄」の力が鑑賞されるが、一方で文化を育み、そこに住む人たちの生活を豊かにし、現在に至る日本の国造りを作ってきた。



徳川六代「中津藩領地内の鉄から古代東アジアの歴史を語る」(シシド マチ)

そんな今、急速な社会変革の中で この製鉄にともなう数々のドラマが忘れ去られ、日本各地の「たたら製鉄」遺跡もろとも消え去ろうとしている。



古代大塚への鉄の道 ①(1)・(2) ②(1)・(2) ③(1)・(2) ④(1)・(2)

製鉄炉は生産された鉄塊の取り出し毎に壊されるので 製鉄関連遺跡に残っている遺構はそんな生産設備の残骸。製鉄関連遺跡にはそんな遺構・生産の痕跡とともに、それに携わった人々の賑わいや数々のドラマ・歴史が周りの美しい景色とともに埋もれて残っています。



古代、新鉄の大型鉄コンヒート 約400 紀元前(日本製鉄博物館)

日本で繰り広げられた数々のドラマ そして その痕跡の風景を少しでも残しておきたいと「和鉄の道・Iron Road」として日本各地を Country Walk しつつ集めています。



和鉄の道・鉄の道が流るる風景 高田 紀子(和鉄の道・Iron Road)

鉄は「文化」をはくくむとともに数々の「戦さ」をも生んだといわれる。それだけ 鉄の力の大きさの証明であり、そうだろうと思いますが、大事なものは それを使う人々の力・心。

その根底には日本人の心の故郷「心優しき縄文の世界」がある。

「鉄」の持つ魅力 「鉄のまばゆい輝き・閃光」と「鉄の黒光り・肌光」

その美しさをこれからも大事にしたいと思っています。



和鉄の道・Iron Road 2019 たたら遺跡探訪 掲載記事目次

◆ 2019年 和鉄の道 Iron Road【19】の口絵

2019.1.1.

19iron00.pdf

2019年 和鉄の道・Iron Road 口絵

口絵-1	鉄の起源・鉄の伝播探求<< ユーラシア大陸を東西に結ぶ鉄の道Metal Road >> 数々の成果を上げてきた愛媛大東アジア古代鉄文化研究センターが本年4月に さらなる発展を目指して「アジア古代産業考古学センター」へと継承改組。
口絵-2	東アジアの製鉄炉比較からたたら製鉄を考える 「たたら原世界 -日・中・韓の中世製鉄-」愛媛大古代鉄研究センター国際学術シンポより
口絵-3	弥生後期鍛冶工房を有する交易を意図した生産工房集落「加茂谷加茂宮の前遺跡」 当時の重要な交易品「辰砂」の主産地 徳島県若杉山遺跡のすぐ隣で出土 淡路島の舟木遺跡などと同じ 大和の国造りの始まりを解き明かすのか?
口絵-4	最新の発掘調査データを取り込み書かれた角田徳幸氏著「たたら製鉄の歴史」 知りたかったたたら製鉄の原料 砂鉄について 色々知見
口絵-5	「名刀匠三条宗近が信仰する稲荷明神の化身子狐(童子)を相繼に名刀「小狐丸」を鍛え上げた」 謡曲「小鍛冶」の舞台 旧東海道 京都三条通 粟田口に鍛冶伝承の痕跡を訪ねる
口絵-6	鉄の話 あれこれ 久しぶりに聞く「青熱脆性」の言葉 弥生の銅鐸破片 「銅鐸の有する青熱脆性の性質が弥生時代終末の謎を解く」 弥生人は銅鐸を加熱後、取り出して衝撃をあたえれば割れて破損することを知っていた

1. 愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター第11回国際学術シンポジウム 19iron01.pdf
「たたら原世界 -日・中・韓の中世製鉄-」聴講抜粋記録 by Mutsu Nakanishi
1. 「中国唐宋時代における製鉄炉」李映福 (四川大学)
2. 「韓国における中世製鉄遺跡の検討 -忠州・多仁鐵所地域を中心に-」(中原文化財研究院)
3. 「報恩大元里遺跡の製鉄炉について」 朴 相賢 (湖西文化遺産研究院)
4. 「中世における製鉄技術の革新と生産地形成」 角田徳幸 (島根県埋文センター)
2. 鉄の話 あれこれ 久しぶりに聞く弥生の銅鐸「青熱脆性」の言葉 19iron02.pdf
弥生の銅鐸破片 「銅鐸の有する青熱脆性の性質が弥生時代終末の謎を解く」
銅鐸を加熱後、取り出して衝撃をあたえれば割れて破損する 青熱脆性
弥生人は青熱脆性を知っていた
3. 製鉄起源に新たな説 鉄の歴史に一石 2019.3.25. 9iron03.pdf
ヒッタイト起源に異説か 通説「ヒッタイトの地」から最古の鉄遺物出土
2019.3.25. 朝日新聞1面トップニュース & 朝日新聞 Digital 掲載
4. 「人工鉄・製鉄技術の起源 & 西ユーラシア大陸を結ぶ《Metal Road》を探る」 19iron04.pdf
《愛媛大 古代鉄文化センター国際シンポジウム》聴講掲載関連記事リスト 2019..3. 25.
5. 【検索情報】 弥生中期末・後期の鍛冶工房など大生産工房集落 19iron05.pdf
弥生中期末・後期の鍛冶工房など大生産工房集落 加茂宮ノ前遺跡が昨年徳島で出土 2019.6.28.
徳島阿南市 那賀川が流れ下る加茂谷 辰砂の若杉山遺跡の近くの河岸 加茂宮の前遺跡
淡路島の日本最古最大の鍛冶工房村と言われた淡路島五斗長垣内遺跡より古く、
また 実用鉄器製造工房のほか当時の朝鮮半島交易の中心交易品水銀朱や勾玉などの装飾品の
生産工房も有していたという弥生時代の鉄器の製造拠点 大規模鉄器工房集落
卑弥呼の邪馬台国・初期大和の国造りに大きな影響？
6. 【資料】 弥生の鍛冶工房村 村上恭通愛媛大教授講演録の紹介 9iron06.pdf
村上教授講演要旨「弥生時代の鍛冶工房に関する基礎論 2019.9.20
ー加茂宮ノ前遺跡の鍛冶工房を理解するためにー
添付 和鉄の道掲載主要関連資料リスト 弥生の中・後期 阿波加茂宮ノ前遺跡 & 淡路島の生産工房群
7. 謡曲「小鍛冶」に謡われる鍛冶伝承地 京口「粟田口」 19iron07.pdf
旧東海道 京都三条通粟田口に鍛冶伝承の痕跡を訪ねる 2019.10.9.
8. 島根県埋文センター 角田徳幸氏著「たたら製鉄の歴史」紹介を兼ねて 19iron08.pdf
たたら製鉄始まりの謎 製鉄原料「砂鉄」は海を渡ってきたのか 2019.12.10.